



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”の登場人物
「シャルロット」

株式会社ロッテホールディングス

2026年9月8日（火）

ロッテ dari K、インドネシアにカカオの「育苗センター」を寄贈 カカオの老木化課題解決へ向け、年間 15,000 本を生産し、 2030 年までに最大 60,000 本の苗木生産を目指す

株式会社ロッテ（東京都新宿区、代表取締役社長執行役員：中島英樹、以下ロッテ）が展開するチョコレートブランド「dari K」は、このたびインドネシア・スラウェシ島へカカオの「育苗センター」を寄贈しました。dari K がカカオを調達するインドネシア・スラウェシ島のカカオ農園では、通常、樹齢 15 年目が生産のピークとされるカカオの木に対して、30～40 年の老木が多く、生産性が大きく低下しているという課題があります。各農家で植え替えへの意識は高まっているものの、現地で高品質な苗木の供給が不足しており、購入しづらいという状況があります。そのような老木化の課題を解決し、良質なカカオを安定的に生産することを目的とし、育苗センターの寄贈に至りました。新たに寄贈した育苗センターでは、年間 15,000 本を生産し、2030 年までに最大 60,000 本を目指すことで dari K による中長期的な生産地支援を加速させていきます。



インドネシア・スラウェシ島で実施された竣工式の様子

■カカオの生産性向上だけでなく、現地の雇用創出と後継者育成にも貢献

今回新たに寄贈した育苗センターでは、高品質なカカオの苗木を生産・供給する拠点としての役割だけでなく、苗木の製造・販売という場をつくることで、地域経済を活性化させます。さらに、育苗センターを苗木育成の研修施設としても活用することで、栽培指導を強化し、高品質なカカオ豆を早期かつ安定的に収穫する基盤を作ることができます。dari K では、高品質なカカオを増やすためには、産地の根本的な構造改善から取り組む必要があると考え、育苗センターの所有権を現地パートナーの「PT UNTUK INDONESIA HIJAU（ウントウック・インドネシア・ヒジャウ社）」に帰属させます。これにより、現地の自立を支援するスキームを確立し、現地パートナーや農家との関係性を強化します。



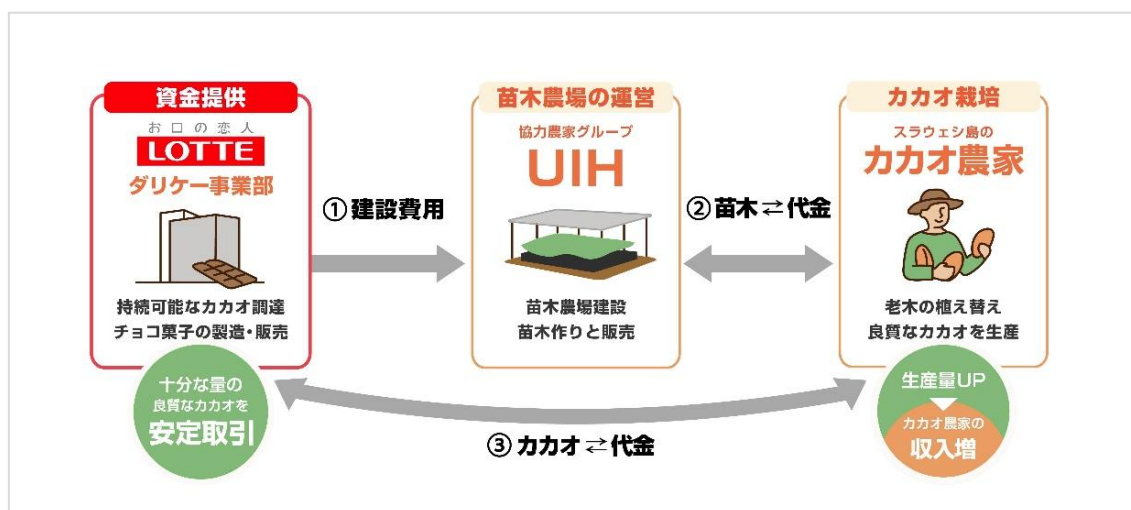
社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”の登場人物
「シャルロッテ」

■カカオ育苗センター 概要

生産キャパシティ：年間 15,000 本

建設場所：西スラウェシ州ボレワリマングール県マピリ郡

所有権：現地パートナー「PT UNTUK INDONESIA HIJAU」



■チョコレートブランド「dari K」について

dari K のチョコレートは、インドネシア・スラウェシ島の農家と大切に育てたカカオから作られています。厳選した素材とシンプルレシピで、フルーティーなカカオ本来の味わいを実現しました。「つくる人、食べる人、くらしと自然。みんなが笑顔になれる All-win Chocolate」をコンセプトに、農家とともに品質を高めたカカオを適正価格で買い取ることで、持続可能なチョコレートづくりを行っています。



■現地パートナー「PT UNTUK INDONESIA HIJAU(ウントウック・インドネシア・ヒジャウ社)」について

カカオ農家への栽培指導、カカオ豆の購入および発酵、現地でのオペレーションにおける dari K の重要なパートナーです。

ロッテは「お口の恋人」として、独創的なアイデアとこころ動かす体験で人と人をつなぎ、世界中の人々のしあわせな未来に貢献します。